

令和7年度 学校自己評価システムシート （さいたま市立川通中学校）

学校番号 250

【様式】

学 校 教 育 目 標	「向学 自立 協働」
目 指 す 学 校 像	「活気にあふれ、あいさつがとびかう明るい学校」「学ぶ喜びを実感できる学校」「安全を意識して、安心感をもって生活できる学校」
重 点 目 標	1 ICT を活用した個別最適な学びと喜びが実感できる協働的な学びの実現 2 積極的な生徒指導ときめ細かな教育相談体制の充実 3 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 4 安全を意識して、安心感をもって生活できる学校づくり 5 指導力を持ち、信頼関係を基盤にした教育活動に取り組む教職員の資質向上

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標						年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○令和6年度全国学力・学習状況調査：全国平均正答率において、国語は僅差で下回っている。数学においては若干上回っている。 ○令和6年度全国学力・学習状況調査 領域等別・観点別調査結果：国語では、読むこと、数学では図形、関数が全国を大きく上回っている。市との比較では全体的に下回っている。 (課題) ○基礎学力の向上が必須。特に国語では書くこと、数学ではデータ活用の向上。 ○学習の仕方を提示し、家庭学習を含めた継続的な学習習慣を身に付けることが必要。	・生徒の学びの実態を把握し、それを踏まえた個別最適な学びの向上	・TTの授業により効果的に学力向上につなげていく。 ・学習アプリ等を学校や家庭で活用し、個別最適な学習を進め、基礎学力の向上を図る。 ・川通チャレンジカップを年3回実施し学びに向かう姿勢を高める。	・学校評価（生徒・保護者）「家庭学習や基礎学力の定着」に係る項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ・基本事項の繰り返し指導や授業の振り返りなどを継続して行い、生徒それぞれの学習への取組状況を確認し、個々の努力を承認できたか。					
		・学ぶ喜びを実感できる協働的な学びの実施	・カリマネ支援パッケージを活用した生徒の学びの質を高める授業づくり。 ・授業における ICT 機器の活用を教科や単元に応じて使用する頻度を増やし、協働的な学びの時間を意図的に設定する。 ・SSSP の効果的な活用を通して、授業改善及び指導力の向上の糧とする。	・学校評価（生徒・保護者）「分かりやすい授業」に係る項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ・「学びの指標」による評価システム「ICT」に係る項目、学校評価（教員）「ICT 活用状況」の項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ・個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実に向けた「学び方」「教え方」が取り入れられているか。					
2	(現状) ○令和6年度学校評価：生徒「将来の進路について考えることがあるか」の項目 A 評価 46.2%。 ○令和6年度学校評価：生徒「あいさつを積極的にやっているか」A 評価 71.3%、「十分な睡眠をとり規則正しい生活を送っているか」A 評価 44.9% ○令和6年度学校評価：生徒「困ったことや悩んでいることがあった場合親身になって相談に乗ってくれるか」A 評価 67.2%、保護者「いじめやその他の相談事に適切に対応しているか」A 評価 17.1% ○生徒指導や教育相談に関する対応について、該当学年を中心に組織的に迅速に対応している。 (課題) ○進路に対して考えているものの具体的なビジョンについては乏しい。 ○配慮を要する生徒個々への対応。 ○個に応じた支援や相談体制のより一層の確立。	・エージェンシーを発揮し、夢に向かって活躍する生徒の育成	・社会生活に必要なコミュニケーション能力、基本的生活習慣を培っていく。 ・将来の社会的・職業的自立に向けた必要な基盤となる能力や態度を、領域のみならず、教科横断的計画し、キャリア教育を進めていく。	・学校評価（生徒・保護者）の「あいさつ」「規則正しい生活」に関する項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ・学校評価（生徒・保護者・教員）「キャリア教育」の項目で、A 評価の平均が昨年度を上回ったか。					
		・積極的で、きめ細かな生徒指導の推進・教育相談の充実	・生徒の個性を尊重し、個に応じた適切な指導と配慮を要する生徒への最適な支援をしていく。（スクールダッシュボードの活用） ・積極的な生徒指導体制と誰一人取り残さない教育相談体制（Sola るーむ、さわやか相談室、関係諸機関との連携）の充実。	・生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に組織的に対応できたか。 ・学校評価（生徒・保護者）「いじめやその他の相談等」に関する項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。					
3	(現状) ○本校は地域の伝統校として認知されており、地域が学校にたいへん協力的である。そのため、地域と連携を図った教育活動が企画しやすい環境下にある。 ○令和 6 年度学校評価：生徒「地域の一員」肯定評価 74.4% (課題) ○保護者からの視点では、生徒が地域に関心を持ったり生徒自身ができることを考えたりすることの意識が低いと感じている。（学校評価：肯定評価 52.7%） ○学校 HP においては閲覧数が前年度より増加しているが、行事以外の学校公開日に来校する方が少ない。	・学校運営協議会を軸にした地域と連携した教育活動の展開	・生徒を地域の行事や活動にボランティアとして積極的に派遣し地域とのかかわりをより多く、強くする。 ・「フィールドワーク」や「未来くるワーク体験」、地域の人材を活用した「未来くる先生」を通して、地域の人と関わりを深くする。	・地域活動やボランティア活動等で、生徒が参加できる機会を設定できたか。 ・学校評価（生徒・保護者）「地域の一員」に関する項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。					
		・開かれた学校づくりの推進	・保護者・地域に向けて、教育活動の参観、公開を多く設定する。 ・学校 HP や保護者への通信アプリを活用し、最新の情報が保護者や地域に届くようにする。	・毎学期、保護者の来校機会を多く設定できたか。 ・学校評価（保護者）「学校からの情報発信」の項目で A 評価が昨年度を上回ったか。					
4	(現状) ○安全・安心を意識して生活している。自転車に起因する他者との大きな交通事故は起きていない。 ○学校評価「防災への意識」生徒・保護者 A 評価平均 67% ○校舎内外施設の老朽化が目立つ。 (課題) ○自転車の乗り方のマナー指導の徹底をはじめ、学校周囲の環境に関わる安全指導の必要性。 ○国道 16 号線増戸の手押し信号の廃止による通学路の変更に係る影響。 ○有事における生徒及び教職員の行動。	・安全安心な教育環境の整備及び適切な学校管理	・複数の目を通して、校舎内外の危険個所を目視、触手にて安全確認し危険と個所、破損個所は迅速に対処する。 ・警察署監修の防犯訓練を実施する。 ・季節の花が咲き、心潤う環境を整備する。	・安全点検を確実に実施し、素早い修繕ができたか。 ・有事を想定した防犯訓練を実施できたか。 ・1年間を通して、季節の花や緑が絶えないようにすることができたか。					
		・安全な生活実現に向け、主体的に取り組む生徒の育成	・交通安全に関する集会を設け、定期的に事故防止について指導し、登下校時等の事故を未然に防ぐ。 ・避難訓練、竜巻情報訓練、シェイクアウト訓練等有事に備えた訓練の実施と、小学校との合同引き渡し訓練を実施する。 ・PTA・関係団体と協働して、防災フェアを開催し生徒の防災意識を育てる。	・学校評価（生徒・保護者）「安全な登下校」に関する項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ・学校評価（生徒・保護者）「安全教育・防災教育」の項目で、A 評価平均が昨年度を上回ったか。					
5	(現状) ○教職員学校評価：「学校課題研究の効果的実施」「校内研修の効果的実施」：肯定評価平均94%以上だが A 評価の割合は平均すると、およそ24%である。 ○教職員のキャリア平均年数が若い。 (課題) ○全教職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと教職員の資質・組織力の向上。 ○キャリア年数の少ない教員への指導法の継承。 ○働き方改革をさらに推進し、教職員の負担感の減少。	・指導力を持ち、信頼関係を基盤にした教育活動に取り組む教職員の資質向上	・講師を招聘して、キャリア教育スタートアップ研修を実施しキャリア教育を進めていく上での方向性を確認する。 ・学力向上カウンセリング研修を通して、生徒の正確な実態把握及び指導力向上につなげる。 ・在校時間システムの集計結果を基に月ごとの仕事量を振り返り、計画的かつ健康的に仕事に取り組む。	・講師を招聘した研修を実施することで、今後の指導に生かすことができたか。 ・学校評価（教職員）「校内研修」「目指す教師像」の項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ・学校評価（教職員）「業務改善」の項目で、A 評価が昨年度を上回ったか。					